

カムリカイツブリ

Podeiceps cristatus (Linnaeus)

カイツブリ目カイツブリ科

石川県カテゴリ 準絶滅危惧

国カテゴリ なし

選定理由

この種の、世界の繁殖分布の東北端にあたり、生物地理学上も注目すべき存在であるため。

形態

全長50～56cm。大型のカイツブリで首が長い。雌雄同色で、夏羽では黒い冠羽と、頬に赤褐色と黒の飾り羽があり、よく目立つ。体は黒褐色で、腹など下面は白い。冬羽では飾り羽がなくなり、顔は白くなる。

国内分布

冬鳥として九州以北の湖沼、河口、内湾に渡来するが、青森県や滋賀県では少数が繁殖している。青森県の小川原湖沼群に繁殖する個体群は国RDBで絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている。

県内分布

主に冬鳥として県内の河川、湖沼、海岸に渡来するが、最近になって柴山潟、河北潟、七尾西湾で少数が繁殖するようになった。

生態

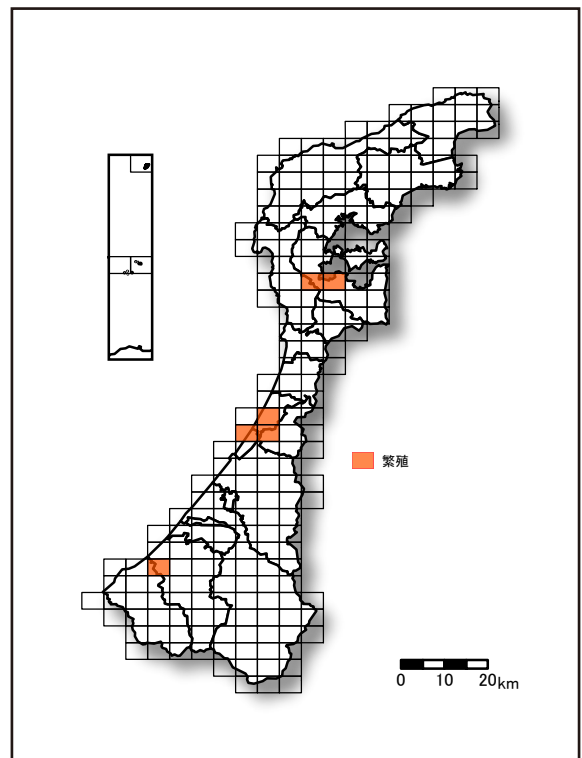
地上を歩く事がほとんどない潜水性の水鳥で、水に潜って魚、甲殻類、昆虫などを捕食する。4月頃、ヨシやマコモの近くに水草を集めて浮き巣を作り産卵し、約4週間でふ化する。ふ化したヒナはすぐ泳げるが、8月頃まで親鳥から給餌を受けながら一緒に行動する。

生息地の条件

広い水域を持つ大きな湖沼と、餌となる魚など水生生物が豊富なこと。

生存の危機

繁殖域となる湖沼のヨシ原の開発や、釣り人などの影響。(A)



県内の分布